

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年7月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103946
法人名	株式会社ショコラ
事業所名	グループホームショコラうすき
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿7丁目14番3号 (電話) 099-275-7075
自己評価作成日	平成29年5月31日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、宇宿の閑静な住宅地に立地しており、すぐに近くの医療機関(しよこらクリニック)やスーパーなどがあり、利用者に恵まれた環境の中にあります。ショコラグループとして、グループホームなごかり、小規模多機能ホーム、共同託児所(ぷちショコラ)、かごしまショコラ保育園、しよこらクリニックの事業も行っております。同施設内に共同託児所ぷちショコラが併設しており、子供たちとの交流を取り入れ中で、利用者の日常生活における活力をもたらし、生き甲斐や心の充実に繋がる環境を作り取り組んでおります。また「今日が最期の日」と言う気持ちで、一日でも長く楽しい時を過ごしていただけるよう、スタッフ一同で日々努力しております。利用者のご家族との絆や関係作りを大切に、より良い時間の提供を行っております。また、施設内での日々の生活を分かっていたくために、日々の様子を写真撮影をし、ご家族に閲覧して頂いたり、ショコラ便り(事業新聞)に添えて配布したりしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、大型団地や大学病院、福祉館、商業ストアなどが近隣にあり、市営バス停に近く、利便性も良く閑静な住宅地に立地している。
- 1階には、デイサービスが併設し、2階には、「ぷちショコラ」という、近隣企業と共同経営の「共同事業所内託児所」が併設しており、日頃から子ども達とふれあい、交流を重ねることで精神的な安定感と気分転換に繋がるよう支援している。利用者は、毎回子ども達との交流活動を楽しみにしている。
- ホームは、看取りに積極的に取り組んでおり、現在も看取りを実施中である。管理者は、契約時から重度化や終末期に向けての意向を確認するようにしており、本人や家族の望む暮らしの実現に向けて、段階に応じて十分に話し合い意思確認をおこない、ホームででき得る最大のケアを提供している。今後は、段階に応じた意思確認を文書化することを検討する予定である。
- 献立は、管理栄養士が作成しているが、年2回実施している家族向けアンケート調査結果でも食事の充実が好評価である。行事などを通じて家族と一緒に食卓を囲む機会も設けており、ホットケーキ、おはぎ、たこ焼きなどのおやつ作りを楽しんでいる。また、毎月、鍋を囲んで家庭の雰囲気味わえるよう取り組んでいる。しかし、重度化するにつれ嚥下困難な方に対しては、とろみ食やソフト食など食事形態を工夫したり、高カロリー食を提供して口腔から栄養摂取ができるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で理念に基づく経営方針を盛り込んだ「行動手帳」を唱和し互いに意識づけあいケアにつながる理念の実践に取り組んでいる。	法人の理念とは別にユニットごとに理念を定め朝礼で唱和し常に理念を意識して職務に取り組んでいる。職員は、年1回理念について話し合い見直しも検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の行事へは職員だけではなく可能な限り利用者も一緒に参加したり、地域住民によるボランティアを招いて踊り会などの催しを開催する等で地域住民との交流を図っている。	日常は、回覧版を活用し、「ショコラ便り」にて利用者の暮らしぶりなどを地域にお知らせしたり、清掃活動や町内会の行事（夏祭り、敬老会、球技大会など）に参加している。また、ボランティアや職場体験を受け入れたり、地域の方の相談窓口を設けるなど地域に貢献している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域町内会の話し合いに参加したり、日常的に地域住民と交流することで、情報提供や情報収集しやすい環境づくりに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に対しては年2回のアンケートや調査を実施しているが、回答しやすいように無記名での回答とし、返信用封筒を同封している。頂いた意見については、運営推進会議にて話し合い、改善している。	会議は、家族の参加を意識し日曜日に開催されているが、両ユニットごとに複数名参加されている。ホームの現状や家族アンケート結果や事故報告などをしたり質疑応答をして意見交換を行い会議で出された意見をケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>会合などの案内がある場合は、積極的に参加している。またホームページ等を閲覧し、サービス向上に努めている。</p>	<p>市担当者とは、電話や面談にて相談や指導など頂くようにしている。管理者は、市から案内された研修会には積極的に職員に参加を促している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>定期的に身体拘束廃止の研修を行っている。研修を通して身体拘束に対して理解している。施設施錠は日中はしていないが、20時以降は防犯のため施錠している。</p>	<p>身体拘束委員会があり、年1回研修会にて身体拘束の弊害などについて知識を研鑽している。センサーマットを使用している方がおられるがカンファレンスや担当者会議にて必要性について検証し話し合っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>社内研修にて高齢者虐待関連法を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>社内定期研修にて地域福祉擁護事業や成年後見制度を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。入居者で必要な方は、それらを活用出来るよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問点が無くなり、納得をした上で契約に関する行為を進めるように留意している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で入居者と話しをする機会を設けるように心がけ、自然な形で入居者の思いを引き出せるように努めている。また、年2回ご家族へアンケートを実施している。	職員は、利用者や家族と直接面談にて意見や要望などを聞き取るよう努めている。家族会を年2回開催し、食事や行事を通じて親睦を深めている。誕生日は、利用者、家族、職員と一緒に外出を楽しんでいる。また、年2回家族向けアンケート調査を実施し、出された意見をサービスに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員が会社を書面で評価する機会、そして面談にて意見を聞く機会を設けている。	人事考課システムがあり、年2回職員と法人代表を交え管理者と三者面談している。幅広い年代層の職員が勤務する職場環境であり、離職も少ない。「ショコラ会」という懇親会があり、年3回飲み会を通じて親睦を深めている。ラインは日常的に職員の意見交換のツールとして活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場へ定期的に足を運び、状況把握している。職員とのコミュニケーションも取れている。給与は資格だけを考慮して決めるのではなく、職員本人の努力や、実績、勤務状況、他職員からの評価を考慮したうえで決める体制にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社がたてている年間計画書を基に、毎月定期研修や勉強会が行われている。さらに、ケアの質の向上を目指して、スタッフ向けのスキルアップ勉強会を月2回行っている。新人職員には、主任が中心となって育成する体制をとっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者・職員との研修会、食事会の機会を設けるなどして意見や要望を伝えたり、相談しやすい環境作りをがけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず見学、スタッフの訪問を行うようにしている。その上で、本人の不安や要望を良く聞くようにし受けとめて努力をしている。また他の介護保険サービスの説明をするように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等にも上記同様、納得してもらった上で利用してもらえようように十分な話し合いに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって、今一番必要な援助の方法を考え、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の好きな事、得意なことを引き出し、長年の技や知恵などを教わるなどして、本人の人格を尊重しながら過ごすよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪した際は、本人の状況報告を行っている。また、日々の様子を知らせてもらえるように「ショコラ便り」にお手紙と写真を添えて定期的にお知らせしたり、電話連絡を行っている。本人と家族にも参加していただくことで、本人と家族のよき関係が保てるように支援してい		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族などに行事の案内(外出レク・誕生日会)をして、出来るだけ馴染みのある方々に参加して頂けるように提案している。	デイサービスを利用していた方が入所に至るケースが多い。職員は、入所前の生活歴を参考にしたり、近所や知人、友人とのつながりを大切にして関係性が途切れることがないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性等に配慮し心地よい時間を過ごしていただけるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時の情報や、またその後も必要な方には継続的な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その方らしい生き方」を中心に考え、介護者の自己満足にならないケアを心がけている。	月1回、ミーティングの中で職員全員で本人の思いに触れる機会を設けている。また、担当者会議で家族の意向を踏まえ本人の思いに寄り添うべく関係者間で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、家族や前施設からの情報を収集し、状況を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時の申し送りや定期的にミーティングを行う中で、利用者の状況を話し合い、今後のより良いケアについて検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を重視し、又担当者会議の中で職員も意見を出し合いながら、利用者の本位の介護計画の作成を心がけている。	看取りの方もおられ、利用者、家族の意向を踏まえ、関係者間で共通認識してケアプランに記載している。通常は、半年ごとにモニタリングしているが、看取りの周期は変則的であるため随時計画を見直している。また、モニタリングの前にミーティングを実施し、ケース検討をおこない本人の思いに触れ、家族の意向を踏まえて現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアについては、個別サービスの記録より、状態の変化を継続的に見ることができる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>建物内に通いや同施設近隣に小規模多機能施設も備えており、在宅復帰後も慣れた空間を継続的に利用できるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者・地域消防隊員を交えての消防訓練を年2回行っている。地域ボランティアによってイベント等に参加してもらい、楽器演奏や踊りを行って、地域に開けた施設を目指している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の意向を第一に、かかりつけ医の選択を行っている。退院は家族同行を基本としているが、必要時には家族の了承のもとで職員が同行している。</p>	<p>本人、家族が希望するかかりつけ医となっており、大半が訪問診療である。管理者は、入院先にも出向き関係を築きながら医療関係者とも連携を図り、ホームでの暮らしが継続していけるよう支援している。毎月、「ショコラ便り」に健康状態を記載し家族に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が利用者全員について把握できるよう、また他介護職員からの相談に乗れるような環境作りに努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力医療との連携を図り緊急時すぐに受け入れ体勢を整えてもらうようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合などの対応については、本人や家族からの希望を第一に考え、事業所内でも「緊急時対応及び見取りに関する指針」において方針を定めている。</p>	<p>重度化した場合の看取りの指針があるが、緊急時や段階に応じた意思確認が文書では実施されていない。契約時に看取りを希望される本人、家族も多いのだが、口頭での説明に終始しているため、今後は段階を踏まえ意思確認を文書化することを検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当や初期対応の訓練を施設内で研修を行っている。また、消防が開催している普通救命講習を受講している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回行われる消防訓練において様々な状況を想定しての訓練に取り組んでいる。地域の方々とは日頃からお付き合いを大事にして緊急時には協力を得られるように働きかけている。</p>	<p>毎月19日に消防署の訓練に職員を参加させ避難訓練に活かしている。職員は、年2回避難訓練を実施、クリニックの看護師も訓練に参加し、利用者の体調管理を担当、脇田分遣隊の巡回もあり安全面に力を入れている。水、カレーなどの備蓄を完備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人権を尊重する言葉かけや対応を行っている。	利用者への呼びかけは、名前をさんづけで呼ぶよう統一している。言葉使いは、利用者に合わせているが方言だったり、標準語だったりしている。職員は定期的に研修を実施し尊厳を持って介護するよう意識づけし統一したケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を第一とするために、普段から対話をして思いを引き出すような環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・公文式等一日の流れを作りながら、利用者本人の希望ペースで参加できるようにし、職員本位のケアにならないように注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ホームへの出張カットを利用したり、行きつけの美容室へご家族と一緒にいたり、本人及び家族の意向に沿った方針で対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の誕生日、行事には特別メニューを設けている。食事について興味を持ってもらえるよう、小鉢などの盛り付けや、配膳・片付けを一緒に行っている。	献立は、管理栄養士が1週間分作成し、栄養成分値をグラフ化して分析しているため、家族にも好評である。誕生会や行事食はリクエストに応じている。ソフト食、トロミをつけるなど食事形態を工夫し、家族の理解を得て高カロリー食を取り入れるなど栄養面に配慮している。おはぎやたこ焼きなどのおやつ作りもしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士にてカロリー計算されており、摂取量の記録と月1回の体重測定を実施している。また、利用者の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫や、介護食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。歯科衛生士の職員により口腔指導を行い、一人一人にあったケアをしている。また、必要に応じて歯科往診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、パッドの検討を行ったり、トイレなどの声掛けを行う事で本人に気持ち良く排泄してもらえるように支援している。	尿意、便意がない方も多いが、定時に声かけし昼間は、布下着に尿取りパットを着けトイレで排泄していただいている。毎朝、ヨーグルトを提供し、体操を実施して便秘を解消するなど排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態や量を記録し、排便状況を把握している。水分摂取の促しや散歩の実施（雨天時は室内にて歩行や階段昇降）腹部マッサージ、またはアルカリイオン水の飲用や食物繊維を積極的に取り入れるなどして、極力、薬にたよらないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には月水土は決まっているが、その他でも本人の希望があれば入浴可能である。必要に応じて、足浴・手浴・清拭も実施している。	入浴は、午後から週3回程度勧めているが、必要に応じて適宜入浴していただき保清に努められるよう取り組んでいる。また、仲の良い方同士一緒に入浴し入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や身体状況を把握し、お昼寝が習慣の利用者には、ゆっくりしていただける空間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きを利用者ごとの個人ファイルに添付している。また、薬の内容が変わった時には、その都度申し送りし、職員全員が利用者の変化に気づけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや片付け、洗濯や掃除など、それぞれ役割を持って行っている。園芸や裁縫等も趣味を取り入れ、日常生活を楽しめるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などには、気分転換や体力作りも兼ねて、一緒に外へ出る機会をできるだけ多く作る様にしている。年間行事を立て、外出レクに利用者やご家族と出かけられるように支援している。	天候が良ければなるべく戸外に出て毎日のように外気浴を楽しんでいる。年間行事計画を作成し、個別で外出をしてもらったり、普段行けない場所（バラ園、動物園など）やドライブ、家族に協力をいただき自宅訪問などを行っている。また、併設の託児所の子供達との交流活動に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者に本人・家族と話し合い、それぞれの利用者力量、希望に応じて支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>贈り物があつた時に本人から、お電話するようしたり、また季節のお便りを（暑中お見舞い・年賀状）を書く機会を設けている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>プライバシーに配慮することはもちろん、飾りつけやお花を飾ったりして、利用者に季節を感じてもらえるようにしている。洗いものをするときなどは、できるだけ利用者に不快感を与えないように、音を立てないなどがけている。</p>	<p>ユニットは、1階、2階に位置し、2階には、託児所が隣接し、1階はデイサービスが併設している。対面式キッチンで、テレビ前にはソファがありくつろげる空間が広がっている。また、畳コーナーがあり洗濯物をたたむのに活用している。壁には、七夕飾りが飾られ、習字などが掲示してある。利用者は、共有スペースや居室で思い思いに過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和気あいあいと過ごせるように、ソファやマッサージ機を置き、好きなところで好きなように過ごしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者に使っていた馴染の家具や装飾品を持ち込んでもらったり、希望があれば畳敷きの部屋に工夫するなど、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	<p>居室には、ベッド、洗面台、クローゼットが備え付けになっている。机、写真、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込み居心地よい居室になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>「安全で使いやすい」を念頭に置いて、トイレや浴室などに手すりを付けている。動線には、物を置かないようにし、安全に歩行できるようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない